

季刊

1月・2月・3月

博物館だより

119

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

U R L <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

特集展

震災遺産を考える

福島県立博物館



ふくしま震災遺産保全プロジェクト アウトリーチ事業

震災遺産を考えるⅡ 会津セッション

「震災から5年を迎えて」

ふくしま震災遺産保全プロジェクトでは、東日本大震災を歴史と位置づけること、歴史として共有し、未来に伝えることを目指しています。そのためにはまず「福島県に何が起きたのか?」「福島県に何が生じたのか?」を明らかにすることを出発点に、震災で生じた出来事の背景や要因を深めていく必要があると考えています。震災で福島県に起きたこと、すなわち「ふくしまの経験」を示す歴史的資料として、私たちは震災が産み出したモノやバシヨに着目し、これを「震災遺産」と呼んでいます。

福島県における本震災には、地震・津波・原子力発電所事故が与えたダメージと、これに対応した救助・避難・支援・除染などの様々な局面があり、この局面ごとにあるいは局面が重なって多量の瓦礫、広域に分布する仮設住宅団地、除染物質の広大な集積など非日常の光景が震災から5年の今も産み出されています。

本プロジェクトでは、震災遺産が震災の経験だけでなく震災前まであった人々の生活や日常を伝える手段になると考え、昨年度からフィールド調査や資料を収集・保全する取り組みを始めました。アウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」会津セッションでは、プロジェクトのこれまでの活動を皆様にご紹介するとともに、震災のカタチを多様な震災遺産と多様な保全のあり方から考える機会として、展示会・対談・シンポジウムを開催します。

ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会

プログラム1
特集展

「震災遺産を考える ―ガレキから我歴へ―」

平成26年度から開始した震災遺産の調査・収集活動とその成果を約100件の収集資料や写真パネルで紹介し、震災の多様性と震災から5年のふくしまを振り返る。

- ◎会場 福島県立博物館企画展示室
- ◎会期 平成28年2月11日(木・祝)～3月21日(月・祝)
- ◎時間 9時30分～17時(入場は16時30分迄) 観覧料無料
- ◎休館日 毎週月曜日 *3月21日(月・祝)は開館
- ◎解説会 毎週日曜日 10時30分～14時
- 2月11日(木・祝) 10時30分～14時
- 3月21日(月・祝) 10時30分～



JR富岡駅(富岡町) 2014年6月

◎構成

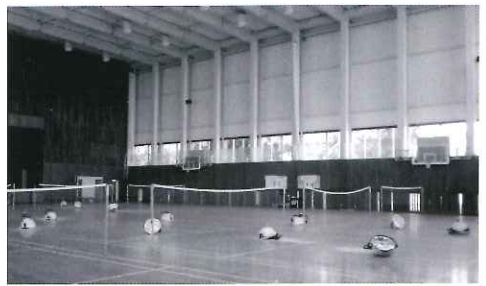
- 1 あの日・あの時から ―揺れる大地・迫る海・崩壊した「安全」―
2011年3月11日から今日までに発生した出来事を、象徴的な震災遺産から振り返る。
 - 2 「避難」の多様性
一次避難所、二日だけの避難所など福島県特有の避難を避難所資料から考える。
 - 3 断絶する「日常」―学校・生活・仕事―
震災で断絶する日常・回復しない日常を被災地に残されたままとなった器物から紹介する。
 - 4 思いがけない「未来」
震災によって意味が変わったもの、新たに生み出されたものから福島県の今の姿を考える。
- ◎主な展示品(期間内に展示替あり)
- ・震災の時刻で止まった時計
 - ・津波で曲がった橋の欄干
 - ・火事で融けた街灯
 - ・配達されなかった新聞包み
 - ・避難所で使われたロウソク
 - ・安定ヨウ素剤
 - ・震災当日の新聞が入ったままの自動販売機
 - ・活断層剥ぎ取り標本
 - ・避難誘導したパトカーの部品
 - ・被災地名を示す道路標識
 - ・非常用飲料水
 - ・横断幕「富岡は負けん！」

同時開催 「3Dデジタル震災遺構アーカイブ体験」

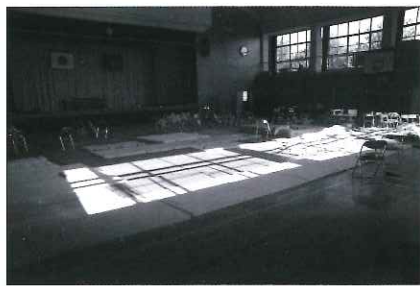
3Dポイントクラウドデータとして保存した福島県所在の「震災遺構」を、最新技術MR*による3次元バーチャル映像で体験します。

*MR＝複合現実・仮想現実と現実世界をリアルタイムで融合させる技術。

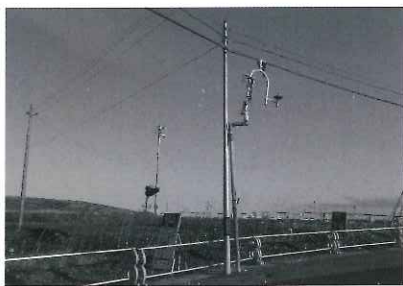
- ◎会場 福島県立博物館企画展示室内特設ブース
 - ◎日時 特集展開催日の10時30分～12時、13時30分～15時
 - ・体験可能人数は午前・午後各20名。午前の部は10時から、午後の部は13時から整理券を配布します。
 - ・お一人当たりの体験時間約5分。
 - ・機器調整のため体験できない場合もあります。
 - ◎コンテンツ
 - ・浪江町請戸地区(請戸小学校・請戸漁協ほか)
 - ・浪江町内避難所跡
 - ・JR富岡駅
 - ・富岡町災害対策本部跡 など
- *協力 キヤノンマーケティングジャパン株式会社



地震により照明が落下した高校の体育館 2015年6月 (富岡町)



避難所になった小学校体育館 2015年6月 (浪江町)



震災時津波と火災に見舞われた商店街の街灯 2015年1月 (いわき市)

プログラム2
トークセッション

「震災画像・映像アーカイブの可能性」

現場から引き剥がされた画像や映像を「場面(シーン)」として捉えることへの違和感。時間の流れとともに被災現場が消失し、風土が記憶・過去を失うとき、画像・映像が、その土地の声なき声・目に映らないもの・現実の不安に対する距離感をどう伝えていくのか。画像・映像に何を語らせるべきなのか。

- ◎会場 福島県立博物館 講堂 (定員200名)
- ◎日時 2月18日(木) 13時30分～15時 入場無料 *申し込み不要・先着順
- ◎出演 (福島県立博物館館長) 赤坂憲雄 × (福島県立博物館主任学芸員) 金澤文利

プログラム3
シンポジウム

「震災遺構を考える——震災を伝えるために——」

福島県における、震災遺構の現地保存の議論は、原子力発電所の事故の影響もあり宮城県や岩手県のように進んでいない。ふくしま震災遺産保全プロジェクトと東北大学は平成26年度から3Dポイントクラウドデータによる県内の震災遺構の保存事業に協力して取り組んでいる。本シンポジウムでは被災3県の震災遺構の保存についての現状を知り、震災遺構や震災遺産の価値を考え、今後どのように活用して震災を伝えていくことができるのか検討する。

- ◎会場 福島県立博物館 講堂 (定員200名)
- ◎日時 3月19日(土) 13時～16時 入場無料 *申し込み不要・先着順
- ◎次第

- 1 開会あいさつ (福島県立博物館館長) 赤坂憲雄
- 2 講演 (各20分程度)

- ・報告1「福島県の震災遺構」 (福島県立博物館主任学芸員) 高橋満
- ・報告2「震災遺構3DデータとMR技術の可能性」 (東北大学学術資源研究公開センター技術支援員) 鹿納晴尚氏
- ・報告3「岩手・宮城の震災遺構」 (東北大学災害科学国際研究所准教授) 柴山明寛氏
- ・報告4「東日本大震災における復興記念公園について」 (国土交通省東北地方整備局東北国営公園事務所所長) 脇坂隆一氏

- 3 パネルディスカッション (司会) 赤坂憲雄 (パネリスト) 右記発表者4名

- 4 閉会あいさつ 赤坂憲雄 (富岡町教育委員会主任学芸員) 三瓶秀文氏



津波被害を受けた道路 2014年5月 (南相馬市)



積み上げられたフレコンバック 2015年5月 (飯館村)

●ふくしま震災遺産保全プロジェクトは「平成27年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の採択を受けて実施しています。

●ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会 (委員長 赤坂憲雄)

- 構成団体
- 相馬中村層群研究会
 - 南相馬市博物館
 - 双葉町歴史民俗資料館
 - 富岡町歴史民俗資料館
 - いわき市石炭・化石館
 - (公財)ふくしま海洋科学館
 - いわき自然史研究会
 - 福島県立博物館

今回のQ&Aは現在福島県立博物館が中核館となり活動している「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」をご紹介します。

Q はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは何を目的にした活動なのですか？

A 東日本大震災、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故によって福島県には津波・地震による被害、放射線被害、さらに、それらを原因にしたコミュニティの分断、風評被害が発生し、今も課題は残されています。この状況から前進するため、福島県立博物館と各地域の博物館、大学、NPOなどが連携し文化活動を行うことを目的に、2012年にスタートしました。

2012年度は、文化財の活用を配慮し復興につながる文化的事業の展開をめざしました。2013年度は、福島県立博物館と地域との協働、他分野との連携・融合、地域へのアウトリーチを積極的に推進しました。2014年度は、震災後4年目の福島に必要な文化的な事業を、各団体と協議、計画し、福島の文化の豊かさの再認識、福島の現状の共有と発信を柱に実施しました。

震災後4年が経過し、福島県の状況は多様に変化しています。県内各地域が抱える問題・課題も同様です。はま・なか・あいづそれぞれの地域での丁寧なりサーチと対応



七夕プロジェクトで作成された七夕飾り

が必要となってきています。2015年度はそれらの解決につながるアプローチとなることを目的に、八つのプロジェクトを展開しています。

Q どのような活動を行っていますか？

A 平成27年度の活動からいくつかをご紹介します。

対話を軸に写真・現代アート・聞き取り調査の手法でコミュニティの問題に向き合う「記憶の紡ぎ場」プロジェクトでは、アーティストとともに、南相馬市、飯館村などで震災の記憶を残します。

「暮らしの記憶」プロジェクトでは、美術家・安田佐智種氏が撮影した南相馬市・浪江町の流出家屋をテーマにした作品をもとに、家屋の住民の方々、被災地の方々の対話を記録しています。

「いわき七夕」プロジェクトでは、いわき市小名浜下神白復興公営住宅といわき駅前商店街を舞台に七夕飾り制作ワークショップを実施。公営住宅入居者のみなさんの交流のお手伝いをしました。

「夢の学び舎」プロジェクトは、昨年引き続き、いわき市内で津波被害の甚大だった豊間地区、仮設住宅が多く建つ好間地区の小学校で、「言葉」「命」をテーマにアートワークショップを年間数回実施。浪江小学校では、絵本作家の飯野和好さんと学校と連携し「なみえっこカルタ」制作に取り組みました。飯館中学校では、ふるさと学習の田植踊りの支援を継続的に実施しています。



浪江小学校での「なみえっこカルタ」制作を指導する飯野和好さん

「岡部昌生プロクターージュ」プロジェクトは、2012年から継続しています。美術家岡部昌生氏のプロクターージュ作品によって津波と原発事故災害の記録と地域の歴史再考を進める事業を南相馬市、飯館村、大熊町、石川町で実施しています。

Q & A 回答者

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト担当

川延 安直



飯館村の切り倒されたいぐね(屋敷林)をプロクターージュする岡部昌生さん

「福島写真美術館」プロジェクトには、震災後の福島を記録している写真家の赤坂知昭さん、本郷毅史さんが参加。福島豊かな自然を象徴する源流域、奥会津の集落の生活など震災前と変わらぬ福島の姿を成果展で紹介する予定です。

その他「グランド・ラウンドテーブル」を、福島を語る開かれた対話の場として開催します。これまで、いわき市・南相馬市・喜多方市等で、「演劇」「鎮魂」「エネルギー」等をテーマに開催。事業の成果を深めるとともに、人的ネットワークを作り、取り組むべき課題を見つけ出す場として

Q 誰でも参加できるのでしょうか？

A どなたでもご参加いただけるプログラムも用意されています。また、今年度は福島県外初の成果展を長野県大町市で開催しました。一月から二月には、静岡市・浜松市、京都市でも開催予定です。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトのホームページもぜひご覧ください。

秋の企画展 「相馬中村藩の人びと」 関連行事

① 記念講演会

「相馬中村藩の成立と家格形成」

講師：東北福祉大学教授 岡田清一氏
 日時・場所：平成27年10月17日（土）
 午後1時30分～ 講堂



記念講演会の様子

今回の企画展の主役でもある相馬氏が、中世の戦国大名から近世大名へと発展してゆく過程について、詳しくお話ししていただきました。具体的には以下のような四つの項目に沿って、系図や地図、所領規模に関する表などを提示しながらのわかりやすい説明でした。

- I 小高・牛越から中村への本拠移転の背景
- II 慶長奥州地震津波と中村領の復興
- III 外様大名から「譜代並」へ
- IV 新たな藩秩序の形成―忠胤・貞胤・尊胤の治世

会場には、相双地域からお越しいただいた方もあり、ふるさとの歴史に関する先生のお話に熱心に耳を傾けていました。

② 関連講座

「御料理方に学ぶ！江戸時代の料理作法―折形を折ってみよう」

講師 食文化研究家 平出美穂子 氏
 日時・場所 平成27年10月31日（土）午後1時30分～ 実習室
 相馬藩の御料理方の家系に伝来した資料を今回の企画展で展示した



様々な折形を熱心に学ぶ参加者

ことに合わせて、江戸時代の食文化に詳しい先生をお招きして企画した実技講座です。

折形は流儀ののつとつて紙を畳む方法で、床飾りや進物を包むのに用いられ、料理の敷物にもなりました。講座では、先生に教わりながら、実際に紙を折って、いろいろな折形を作ってみました。

中には難しい折形もあり、参加者の皆さんは何度も先生にたずねながら挑戦していました。最後には、お菓子を盛りつけ、お茶を飲みながら講座をふり返り、なごやかな雰囲気の中で終了しました。

自然史講座

「鶴ヶ城の野鳥」

日時 平成27年11月15日（日）13時30分～15時30分
 会場 福島県立博物館視聴覚室 および鶴ヶ城周辺

自然史講座「鶴ヶ城の野鳥」は毎年この時期に行っている講座で、今年も野鳥研究家の古川裕司氏をお招きし、会津若松市鶴ヶ城周辺の野鳥を観察しました。鶴ヶ城は、街中に各種の野鳥が生息する貴重な場所です。今回の参加者は12名。まず視聴覚室で、会津若松市に生息する代表的な野鳥の説明があり、その後鶴ヶ城に行き、お堀を中心にカワウ、サギ、カモなどたくさんの野鳥を観察しました。あいにくの雨模様でしたが後半は天気が良くなり、最後に人気の高いカワセミを発見し、参加者のみなさんは満足された様子でした。



鶴ヶ城周辺の野鳥観察を楽しむ参加者の皆さん

いわき市田人の地震断層

専門員 竹谷陽二郎

2011年3月11日に発生したマグニチュード9.0の「東北地方太平洋沖地震」の一ヶ月後の4月11日に、いわき市直下に発生したマグニチュード7.0の「福島県浜通りの地震」は、いわき地域に甚大な被害をもたらした。この地震は、東北地方太平洋沖地震が東北日本の地殻内の応力状態を変えたことにより発生した誘発地震であり、正断層型の地震であることが大きな特徴である。特に田人地域では、北北西-南南東方向に14kmにわたり、垂直変位が最大2mを超える地震断層が地表に出現し、以前から存在が確認されていた井戸沢断層の西側断層あるいは新たに塩ノ平断層と呼ばれている。

この地表地震断層を記録するため、いわき市田人町の台地区で、2015年10月13日～17日に、トレンチの掘削と、地層の断面はぎ取りを行った。ここではこの地震により1.2m西落ちの段差が生じている。掘削した場所は、2011年に京都大学准教授の堤浩之氏を中心とした研究グループが掘削した地点で、今回堤氏の指導のもと再度掘削を行った。

下に示した写真が掘削した断面の地層の様子である。この地層は近くを流れる別当川による段丘堆積物である。右側(西側)が高角で西傾斜の断層により落ち込んでいる様子がよく分かる。下部の礫層・砂層が断層により直線的に切られている。これに対して上部の泥や礫交じり泥の地層は断層による切断が見られず、たわんだ変形(撓曲)を示している。また、地表付近には断層により生じた割れ目があり、上の土がそこに落ち込み割れ目を充填している。堤氏らの研究によると、下部の



断層運動を示す地層の断面(黄色い糸の間隔は1m)

礫および砂層の上下変位量は1.5mあり、今回の地震による変位量1.2mより30cm大きい。これは今回の地震以前に、この断層が30cmほど西落ちで動いていたことを示唆している。その活動時期は、地層に含まれる木片の年代測定に基づき、12500～17000年前と考えられている。

この地層断面の剥ぎ取りを東北学院大学講師の松田隆嗣氏の指導により実施した。剥ぎ取り面は3メートル四方という巨大なもので大変な作業であったが、地元の田人中学校の生徒さんらの協力



地元中学生達と剥ぎ取った地層

で実現できた。この剥ぎ取り断面は、2016年2月11日～3月21日に福島県立博物館で開催される特集展「震災遺産を考える」で展示する予定である。ぜひ見に来ていただき、地殻変動の大きさや断層活動の歴史を体感していただきたい。

なおこの事業は、震災遺産の保全に取り組んでいる「ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会」と「田人地域振興協議会」の共催で行い、地元のいわき市田人支所および住民のみなさんの協力を得て実施した。また平成27年度文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」による支援を得た。

参考文献

堤 浩之・遠田晋次(2012) 2011年4月11日に発生した福島県浜通りの地震の地震断層と活動履歴。地質学雑誌 第118巻 第9号 559～570ページ

「けんぱくの宝 2015」

会期 11月14日(土)～平成28年1月24日(日)まで

会場 部門「歴史美術」

年末・年始を中心に毎年開催している「けんぱくの宝」展、今年も開催しております。福島県の戦国時代を代表する画家の雪村周継筆「蔬果図」をはじめ、会津藩のお抱え絵師・加藤遠澤の大作「寿老人図」、会津若松城下に生まれ苦学の末に彦根藩井伊家の御用絵師となった佐竹永海、会津藩の藩祖・保科正之をまつる猪苗代の土津神社の神楽再興に尽力した浦上玉堂、大正時代に会津・喜多方をたびたび訪れた小川芋銭の作品などをご覧ください。

加藤遠澤の流れを継ぐ会津藩絵師安藤遠佐の「群鶴図屏風」(二本松市・桑原茂氏寄贈)は初公開です。鶴が舞い飛び、巣で子育てをするめでたい屏風が新年を寿ぎます。

会場：福島県立博物館 常設展部門展示室「歴史・美術」

観覧料：常設展料金でご覧になれます。

*大人・大学生270円(210円)、高校生・小中学生無料()内は20名以上の団体



浦上玉堂筆「野橋可立図」



若松城下絵図屏風(部分)

会期：平成28年4月23日(土)～6月12日(日)<予定>

企画展予告

「幕末・若松・喜知松！」

「物知り絵師がのこした会津―(仮称)―」

幕末の会津を調べつくした一人の男。その名を大須賀喜知松といいます。

名前の通り「知る」ことに何よりの喜びを感じていたのであろうその人は、会津の人・物・風景を情熱的に調査し、知り得た事実を絵画、書籍、摺り物などに仕上げ、自在に表現しました。

生まれは商家ですが、本人は若松城下郊外に住み、絵師を生業としたようです。彼の作品で最も知られたものに「若松城下絵図屏風」があります。高い建物も空撮技術もない時代に、鳥のように空から若松城下を見下ろす構図を頭の中で組み立て、描き出しました。

本展では、大須賀清光(皎齋)という名で知られた絵師としての活躍を紹介すると共に、喜知松が知識をもとに紡ぎ出した番付など出版資料の数々もご覧いただきます。

さあ、あなたも「喜知松」になって、幕末会津の世界へ旅してみませんか。

ふくしま震災遺産保全プロジェクト アウトリーチ事業
震災遺産を考えるⅡ 会津セッショ

「震災から5年を迎えて」

プログラム1 特集展

「震災遺産を考えるーガレキから我歴へ」
会期 2月11日(木・祝)～3月21日(月・祝)
会場 企画展示室 ※入場無料

「特集展示解説会」

日時 毎週日曜日 10時30分、14時
2月11日(木・祝) 10時30分、14時
3月21日(月・祝) 10時30分
会場 企画展示室 ※入場無料 申込み不要

同時開催「3Dデジタル震災遺構アーカイブ体験」

時間 10時30分～12時、13時30分～15時
会場 企画展示室内特設ブース ※入場無料
※体験可能人数は午前・午後各20名 午前の部は10時から、午後の部は13時から整理券を配布します
※1人当たりの体験時間約5分
※機器調整のため体験できない場合もあります

プログラム2 トークセッション

「震災画像・映像アーカイブの可能性」

日時 2月18日(木) 13時30分～15時
出演 館長 赤坂憲雄×学芸員 金澤文利
会場 講堂(定員200名)
※申込み不要 入場無料・先着順

プログラム3 シンポジウム

「震災遺構を考えるー震災を伝えるために」

日時 3月19日(土) 13時～16時
会場 講堂(定員200名)
※申込み不要 入場無料・先着順
講演(各20分程度)
学芸員 高橋満
報告1 「福島県の震災遺構」
東北大学博物館研究公開センター 技術支援員 鹿納時尚氏
報告2 「震災遺構3DデータとMR技術の可能性」
東北大学工学部国際研究所准教授 柴山明寛氏
報告3 「岩手・宮城の震災遺構」
東北大学大震災における復興祈念公園について
国土交通省北地方整備局東北圏公園事務所所長 脇坂隆一氏
パネルディスカッション (パネリスト) 右記発表者4名
富岡町教育委員会 主任学芸員 三瓶秀文氏
(司会) 館長 赤坂憲雄

テーマ展

「ふるさとの考古資料6 「飯館村」 遺跡探訪」
会期 6月20日(土)～平成28年5月8日(日)
会場 部門「考古」

「けんばくの宝2015」
会期 11月14日(土)～平成28年1月24日(日)
会場 部門「歴史・美術」

「建具指物師の仕事(わざ)ー木村徳治展」
会期 2月6日(土)～3月27日(日)
会場 部門「歴史・美術」

ポイント展

「石器に用いられた石」
会期 11月5日(木)～平成28年3月13日(日)まで
会場 総合「原始」

「縄文時代の植物利用」
会期 11月10日(火)～平成28年3月13日(日)まで
会場 総合「原始」

「弥生時代の骨角器」
会期 11月17日(火)～平成28年3月13日(日)まで
会場 総合「原始」

「郡役所のお仕事」
会期 11月25日(水)～平成28年3月13日(日)まで
会場 総合「古代」

「むかしの道具ー洗たくとアイロンかけー」
会期 12月4日(金)～平成28年3月23日(水)まで
会場 部門「民俗」

「地質図を読もう」
会期 1月22日(金)～2月28日(日)まで
会場 エントランスホール

「会津盆地の土地利用」
会期 2月18日(木)～3月31日(木)まで
会場 総合展示室「自然と人間」

講演・講座

○考古学講座

「縄文時代の編み物を再現しよう!」
日時 1月16日(土) 10時～15時
講師 バスケタリ作家 本間 恵氏
会場 実習室 ※材料費無料 定員15名 要申込み
※出来あがった作品はお持ち帰りいただけます

「勾玉・ガラス玉を作ろう」
日時 3月26日(土) 10時～15時
講師 学芸員 高橋満 会場 実習室
※参加費300円 定員20名 要申込み

○民俗講座

映像でみるふくしま伝承の技④
「会津の和ろうそくづくり」
日時 1月23日(土) 13時30分～15時
講師 学芸員 内山大介
会場 講堂 ※入場無料 申込み不要

○ギャラリートーク

「展示資料からみる古代のふくしま」
日時 ①1月10日(日) ②2月21日(日)
③3月13日(日)
※①②③いずれも13時30分～14時
講師 学芸員 荒木隆 会場 総合「古代」
※申込み不要 常設展示料金でご覧いただけます

○冬のお楽しみ交流会

「サロンド考古学」①②③
日時 ①1月24日(日) ②2月28日(日)
③3月27日(日) いずれも11時～12時
講師 学芸員 荒木隆
会場 福島県立博物館レストラン ※申込み不要
※参加料800円(ランチBセットの料金)税込

復興のつどい

日時 3月5日(土)
会場 福島県立博物館前庭・エントランス・講堂
※入場無料 申込み不要

館長講座「震災から5年をむかえて①」

対談 それでも、文化の力を信じてみたい
日時 1月21日(木) 13時30分～15時
会場 講堂
出演 女優 DDP(国連開発計画)親善大使 紺野美沙子氏
館長 赤坂 憲雄

※当口は入場整理券が必要となります
整理券は12月17日(水)より当館受付にて配布しております
(1名様1枚限り。先着順。定員になり次第締め切らせていただきます)

館長講座「震災から5年を迎えて②③」のお知らせ
2月の「館長講座②」は震災遺産を考えるⅡ会津セッショ
プログラム2 トークセッション
「震災画像・映像アーカイブの可能性」2月18日(木)

3月の「館長講座③」は震災遺産を考えるⅡ会津セッショ
プログラム3 シンポジウム
「震災遺産を考えるー震災を伝えるために」3月19日(土)
となります。

福島県立博物館移動展のご案内

○「被災地からの考古学1 in 南相馬」
会期 1月16日(土)～3月6日(日)
会場 南相馬市博物館 ※有料 申込み不要

○開募説明会

会期 1月16日(土) 13時30分
講師 荒木隆(福島県立博物館学芸員)
※有料 申込み不要

○「被災地からの考古学1 in 南相馬」講演会

「浜通り地方から福島県の古代を読み解く」
日時 1月30日(土) 13時30分～15時
講師 荒木隆(福島県立博物館学芸員)
会場 南相馬市博物館 体験学習室
※聴講無料 定員30名 要申込み

○「シリーズ浜通り地方の製鉄を考える」

日時 2月6日(土) 13時30分～15時
講師 日本古代鉄生産研究会 吉田秀享氏
会場 南相馬市博物館 体験学習室
※聴講無料 定員30名 要申込み

○「復興調査から見えてきた南相馬地方の歴史」

日時 2月27日(土) 13時30分～15時
講師 南相馬市教育委員会文化課 荒 淑人氏
会場 南相馬市博物館 実習室
※聴講無料 定員30名 要申込み

○「藤井康文 恐竜イラスト原画展」

会期 1月6日(水)まで
会場 福島県立図書館展示コーナー
※無料でご覧いただけます

○常設展観覧料

*一般・大学生は270円
(20名以上の団体の場合210円)
*高校生以下は無料でご覧いただけます

○1月・3月の休館日

※1月1日(金)～1月3日(日)は年始のため休館いたします
1月4日(月)・12日(火)・18日(月)・25日(日)
2月1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(日)・29日(日)
3月7日(月)・14日(月)・22日(火)・28日(日)

*要申込みの行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください

*その他、行事等の詳細に関しましては月行事予定やホームページをご覧ください

